

# 平成19年度病害虫発生予察特殊報第5号

平成20年1月9日  
発表：福島県病害虫防除所

病害虫名 スモモヒメシンクイ  
【学名 *Grapholita dimorpha* Komai】

1 作物名 リンゴ、スモモ

## 2 発生状況

平成19年10月に、会津地方のリンゴ「ふじ」で、シンクイムシ類による被害果から採取した幼虫を羽化させ、成虫を横浜植物防疫所塩釜支所に同定を依頼した。その結果、交尾器の形態から、スモモヒメシンクイの雄であることが確認された。

本種の被害は、平成15年に中通り地方北部のスモモで確認されていたが、今回新たに会津地方のリンゴで被害が確認された。特に、被害の多発した会津地方の一部では、平成15年頃から、スモモやリンゴで同様の被害が確認されており、多発ほ場においては樹上果実の1%程度の被害となった。しかし、他のシンクイムシ類の被害として扱われていた。

## 3 形態および加害様相

### (1) 形態

チョウ目ハマキガ科に属する小蛾類で、成虫の体長7mm前後、開張12~15mmであり、成虫の翅は黒褐色で線状の細かい模様がみられ、ナシヒメシンクイよりやや大型である(写真1, 2)。卵は長径約0.9mmのやや楕円形で扁平な形であり、果実表面に産み付けられ、ふ化後、卵殻は果実表面に残る。なお、成虫は果面が滑らかな果実を選んで産卵する習性がある。幼虫の若・中齢期は白色で頭部が黒く、老齢期は全体が赤みを帯び、体長が10~13mmになる(写真3, 4)。

卵から成虫までの形態はナシヒメシンクイに酷似するが、次の点でナシヒメシンクイと異なる。

雄成虫：後翅を十分展開させ外縁の形状を比較すると、ナシヒメシンクイは丸味のある連続した曲線状をしているのに対し、スモモヒメシンクイは角張っている。

幼虫：ナシヒメシンクイの老熟幼虫は蛹室を作らないのに対し、スモモヒメシンクイの老熟幼虫は、果実の内側から果皮に楕円形の切り込みを入れ、蛹室を作りその中で蛹化する(ただし、越冬に入る幼虫は蛹室を作らないとされる)。

### (2) 加害様相

リンゴでの被害は主に8月下旬以降に発生し、孵化幼虫は始め果皮下に隧道を作りながら摂食し、直線状、渦巻き状、放射状など多様な食害痕を残す。その後加害部が変色、腐敗する。また、果皮を透かして幼虫が見えることもある。なお、ナシヒメシンクイと異なり新梢は害しない。

## 4 生態および寄宿主植物

本種は、平成14年にスモモヒメシンクイ用ルアー(試作製剤)を用いたトラップで誘殺が確認された。

本県での成虫誘殺盛期は、5月下旬、7月下旬、9月下旬の3回であるが、高温年には4回発生する可能性も考えられる。

本種によるスモモの被害は、青森、岩手、山梨、長野で発生が確認されている。なお、リンゴでの寄生は、これまで長野県のみで確認されていた。

本種の寄生樹種としてはナシ、ボケ、クサボケが知られているが、ボケ類は越冬世代のみである。なお、越冬世代、第1世代成虫は主にスモモに、第2世代、第3世代成虫以降がリンゴやナシに産卵すると考えられているが、不明な点が多い。

## 5 防除対策

耕種的防除：被害果は見つけ次第摘除し、水漬けや土中に埋めるなど適正に処理する。

薬剤防除：主に第2世代のふ化幼虫が発生する頃（8月上旬頃）から、5～7日間隔でシンクイムシ類登録剤（別表）を数回散布する。

## 6 その他

スモモヒメシンクイの雄はナシヒメシンクイのフェロモントラップにも誘引される。捕獲成虫の後翅形状を調査することで、発生を確認することができる。



写真1 スモモヒメシンクイ雄成虫（後翅が角張る）



写真2 ナシヒメシンクイ雄成虫（後翅が曲線状）



写真3 スモモヒメシンクイ幼虫



写真4 ナシヒメシンクイ幼虫

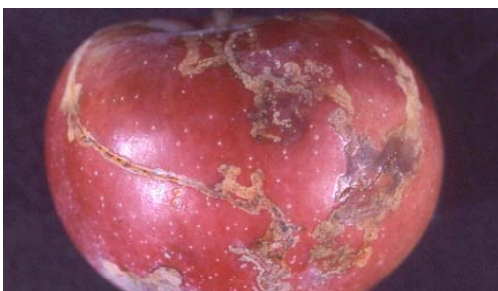


写真5 リンゴの被害果（品種：旭）

※ 写真1, 2, 3, 5は、長野果試  
吉沢栄治 主任研究員より提供。

表1 シンクイムシ類に対する登録農薬（リンゴ）

薬剤名	農薬の成分名	濃度	対象害虫			使用期間 (収穫前日数)	使用回数 の制限 (回)	蚕毒 規制 対象 農薬
			シンクイ シ類	ナシメ シンクイ	モモシ クイガ			
ネオニコチ ノイド剤	アクタラ顆粒水溶剤	チアメキサム	2,000倍	○		7	2	●
	アルバリン顆粒水溶剤	ジノデフラン	2,000倍	○		前日	3	●
	スタークル顆粒水溶剤	クロチアニジン	2,000倍	○		前日	3	●
	バリアード顆粒水和剤	チアクロプリド	2,000倍	○		前日	3	●
	モスピラン水溶剤	アセタミプリド	2,000倍	○		前日	2	●
	サイアノックス水和剤	CYAP	1,000倍	○		30	3	
有機リン剤	スプラサイド水和剤	DMTP	1,500倍		○	30	2	
	スミチオン水和剤40	MEP	800倍		○	30	3	
	ダーズバンDF	クロルピリホス	3,000倍		○	14	2	
	ダイアジン水和剤34	ダイアジン	1,000倍		○	30	4	
カーバ メート剤	オリオン水和剤40	アラニカルブ	1,000倍		○	前日	2	
	マイクロナポン水和剤85	NAC	1,200倍		○	30	4	
	ラービンフロアブル	チオシカルブ	750倍	○		14	3	●
合成ピレス ロイド剤	アージェント水和剤	アクリナリン	1,000倍		○	7	3	●
	アデイオンフロアブル	ベルメトリン	1,500倍	○		14	2	●
	スカウトフロアブル	トラロメリン	2,000倍	○		7	5	●
	テルスター水和剤	ピフェントリン	1,000倍		○	7	2	●
	マブリック水和剤20	フルバリネート	2,000倍	○		30	2	●
	ロディー水和剤	フェンプロパトリン	1,000倍		○	前日	2	●
	MR. ジョーカー水和剤	シラフルオフェン	2,000倍	○		14	2	●
IGR剤	ノーモルト乳剤	テフルヘンズロン	2,000倍	○		前日	2	●

表2 シンクイムシ類に対する登録農薬（スモモ）

薬剤名	農薬の成分名	濃度	使用期間 (収穫前日数)	使用回数 の制限 (回)	蚕毒 規制 対象 農薬	
ネオニコチ ノイド剤	モスピラン水溶剤	アセタミプリド	4,000倍	7	3	●
有機リン剤	サイアノックス水和剤	CYAP	1,000倍	21	2	
	ダーズバンDF	クロルピリホス	3,000倍	14	2	
	ダイアジン水和剤34	ダイアジン	1,000倍	21	4	
合成ピレス ロイド剤	スカウトフロアブル	トラロメリン	2,000倍	前日	3	●

- ※ リンゴは平成19年12月26日、スモモは平成20年1月8日現在の農薬登録内容である。
- ※ 本表は、平成19年版農作物病害虫防除指針より抜粋した。
- ※ 対象害虫名に記載されている○印等は、本県におけるその農薬の防除効果及び感受性低下等に配慮し選択されており、その農薬の登録適用害虫すべてを反映させていないので注意する。
- ※ ●印のある殺虫剤は蚕毒規制対象農薬であり、選択する際は、最寄りの農業普及所または病害虫防除所に相談すること。
- ※ 薬剤を選択する際、選択した薬剤の使用回数と含有する有効成分の総使用回数（他剤を含む）に十分注意する。
- ※ 薬剤を選択する際、収穫前日数に十分注意する。